㊽ 岩屋口古墳　高横須賀町岩屋口　市指定史跡

岩屋口古墳は、新日本製鐵高横須賀社宅のある丘陵の南側の名鉄河和線沿いにあります。6世紀の末ころに築かれたもので、知多半島で最大の規模の横穴式石室（側面と天井部分を石で築き出入口を設ける）を持っています。石室の現在残る大きさは、長さ8.4m、幅1.7m、高さ2mほどあります。この石室を築いた大きな石材は、岐阜県西部から三重県北部に位置する養老山系を構成する硬砂岩で（河津石ともよばれる）、岐阜県海津郡付近で採石されたものが、筏を組んで揖斐川を下ったのち伊勢湾を横断して、この地まで運ばれたものと推定されています。
古墳を築くために多くの人の力を集め、石を運搬し、丘陵に引き上げ、厳密な設計技術によって組み立てることのできた有力者が、この地域にいたことを示しています。

柳ケ坪遺跡の貝塚

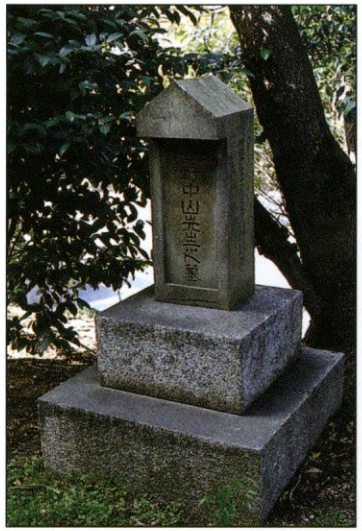
㊾ 柳ケ坪遺跡　高横須賀町柳ケ坪　市指定史跡

横須賀町から高横須賀町にかけての海岸平地は、知多半島の中でも広い面積を持っています。この平地には、内陸から海岸に向かって3つのうねりがあり、柳ケ坪遺跡は最も内陸寄りの小高いところにあります。弥生時代に始まった稲作農耕に適したところで、高まりの周囲の低い湿地を利用して弥生時代の中期ころ（紀元前1世紀ころ）から稲作を始めた人々が住み始めました。この遺跡には、貝のかけらがたくさん散っていますが、この貝殻は、ここに住んだ鎌倉時代（12世紀）の人々が、海から採ってきて食べたハマグリやシオフキの貝殻を捨てたもので、大きな貝塚があります。

㊿ 熊野神社　加木屋町宮ノ脇

国道155線と県道名古屋半田線が交差する白拍子交差点の北西にある加木屋の氏神様で、桶狭間の合戦（1560）の後に、加木屋に移り住んだ今川の家来の久野清兵衛宗政が屋敷に祭っていたのを、現在地に移しました。かつてはこのお社の祭礼にも山車が3台奉納されていましたが、明治の初めに絶えてしまいました。境内の鳥居の左横に、地元の酒造家で、俳人でもあった早川平右工門（俳名を都竺といいました）が建てた松尾芭蕉の詠んだ「花の雲鐘は上野か浅草か」の句碑があります。

辻ケ花染の蓮華水禽図


中山梅軒の墓

坂正臣・若菜夫妻の墓

㊷ 普済寺　加木屋町西御門

県道名古屋半田線沿いの名鉄バスの車庫の西側高台にある大きなお寺です。文亀元年（1501）に大中一介和尚が開きました。寺宝として、文明14年（1482）に逆翁崇順の書いた「法要決疑論」（市指定古文書）という、禅家の法要に際しての儀礼について解説された古文書、開山の大中和尚が用いたといわれる法衣（市指定有形民俗文化財）、このほか、室町時代のころに描かれたとみられる「蓮華水禽図」（市指定絵画）、「出山釈迦如来画像」（市指定絵画）、「寒山拾得画像」（市指定絵画）の貴重な仏像掛軸などがあります。「蓮華水禽図」の表装には、辻ケ花染の布が使われています。境内には、俳人の久野襦鶴、早川都竺らの句碑が建てられています。また、墓地には、歌人、書家として有名であった阪（本名は坂）正臣、若菜夫妻の墓があります。山門に向かって左側の木立ちの中に、中山梅軒の墓があります。梅軒は、尾張藩校明倫堂の教授でしたが、明治維新後に、加木屋に住んで近在の人びとを教え、教育事業に尽くしました。